

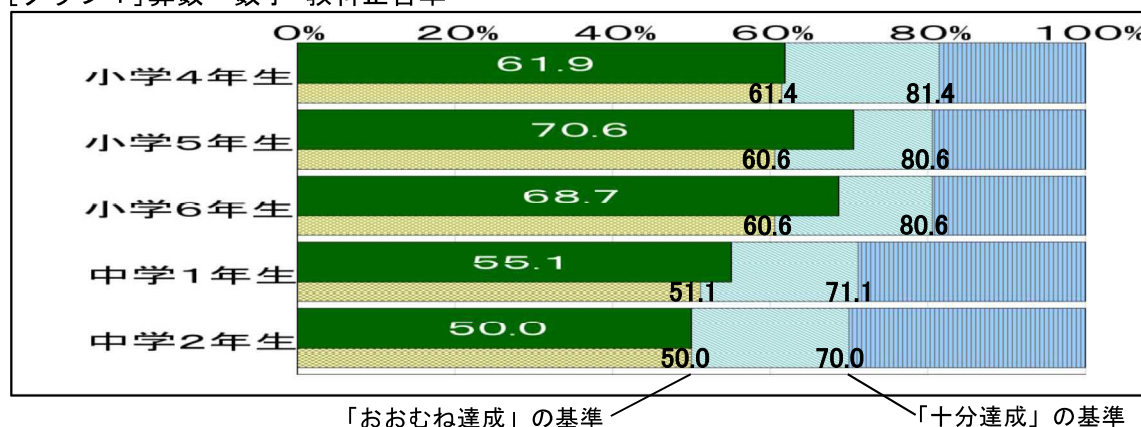
### Ⅲ 教科ごとの調査結果とその分析

## 算数・数学

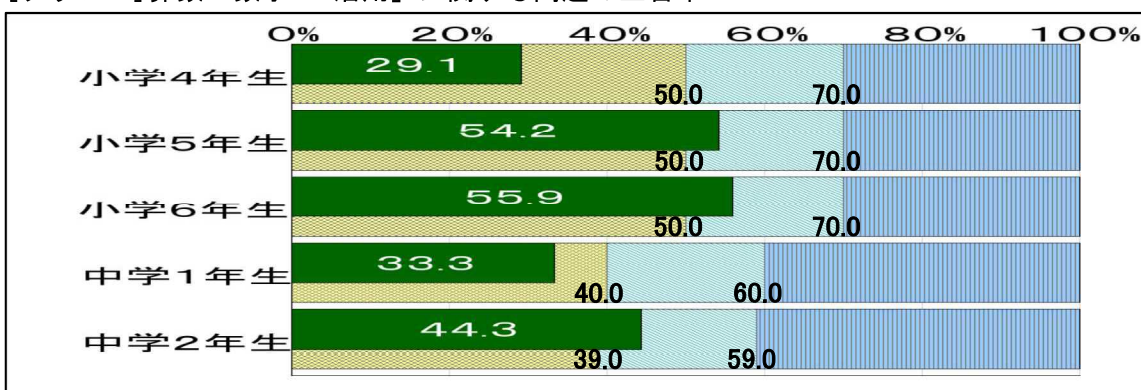
(1) 結果の概要

- 教科正答率は、小学校全ての学年、中学1年生で「おおむね達成」の基準を上回っている。中学2年生で「おおむね達成」の基準と同値である。[グラフ1]
- 「活用」に関する問題については、小学4年生と中学1年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ2]
- 観点別に見ると、小学5年生と小学6年生は、全ての観点で「おおむね達成」の基準を上回っている。「数量や図形についての（数学的な）技能」については、小・中学校の全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。「数学的な考え方（見方や考え方）」については、小学4年生と中学1年生、「数量や図形（など）についての知識・理解」については、小学4年生と中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ3～5]
- 内容・領域別に見ると、小学校では、「数と計算」「量と測定」については、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。「図形」については、小学4年生と小学5年生、「数量関係」については、小学4年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。中学校では、「数と式」については、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。「図形」「関数」「資料の活用」については、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ6～10]

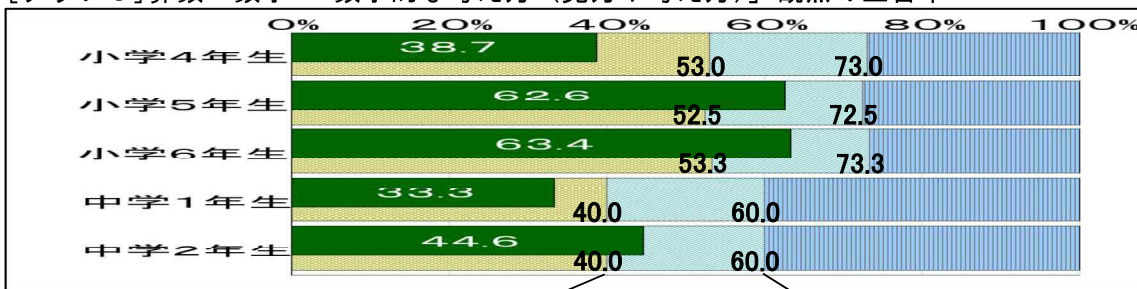
[グラフ1]算数・数学 教科正答率



[グラフ2]算数・数学 「活用」に関する問題の正答率

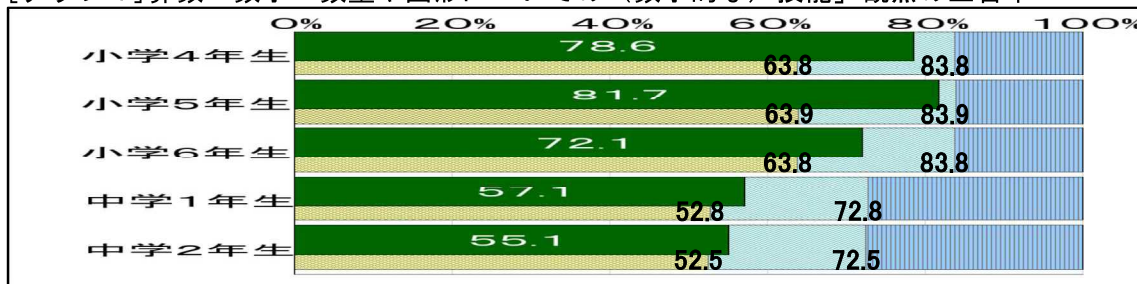


[グラフ3]算数・数学 「数学的な考え方（見方や考え方）」観点の正答率

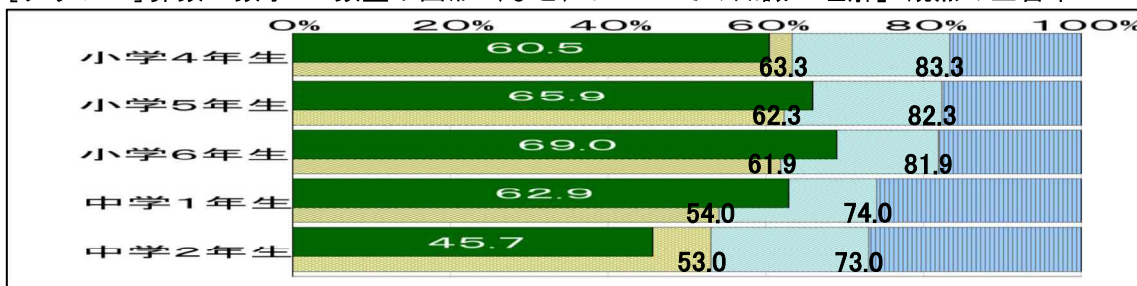


「おおむね達成」の基準 「十分達成」の基準

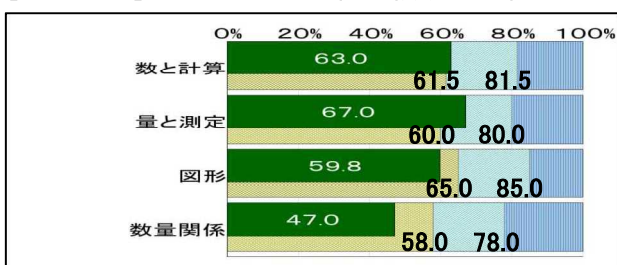
[グラフ4]算数・数学 「数量や図形についての（数学的な）技能」観点の正答率



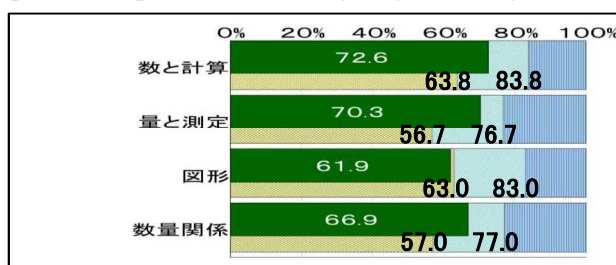
[グラフ5]算数・数学 「数量や図形（など）についての知識・理解」観点の正答率



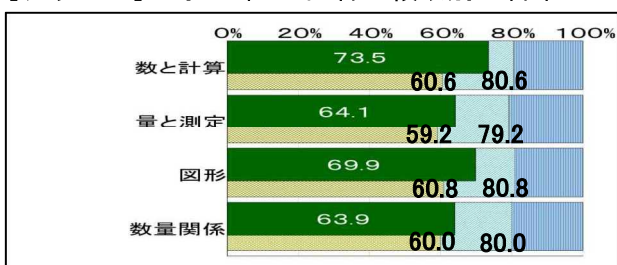
[グラフ6]小学4年生 内容・領域別正答率



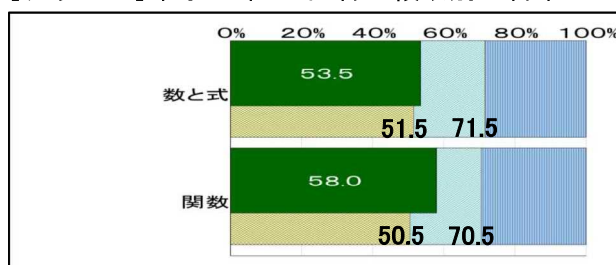
[グラフ7]小学5年生 内容・領域別正答率



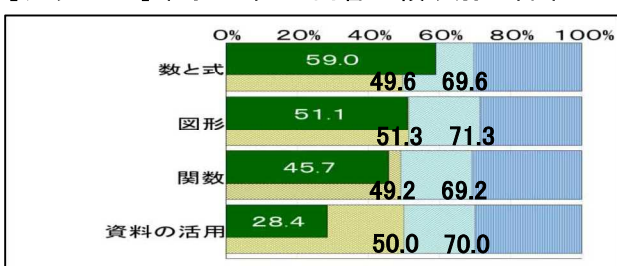
[グラフ8]小学6年生 内容・領域別正答率



[グラフ9]中学1年生 内容・領域別正答率



[グラフ10]中学2年生 内容・領域別正答率



## (2) 成果と課題及び指導改善のポイント


### 小学校算数（小学4年生、小学5年生、小学6年生）

#### 成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 整数や小数、分数の乗法の計算の基礎的な技能が身に付いている。  
(小学4年生<sup>1</sup>(1)、小学5年生<sup>1</sup>(1)、小学6年生<sup>1</sup>(2))
- ◇ 場面と図とを関連付けたり、場面と数直線とを関連付けたりして、二つの数量の関係を理解することができる。  
(小学5年生<sup>3</sup>(1)、小学6年生<sup>3</sup>(1))
- ◇ 正方形の辺と辺の平行の関係、立方体の面と面の平行の関係を理解することができる。  
(小学4年生<sup>7</sup>(2)、小学5年生<sup>7</sup>(2))
- ◆ 1 整数と小数の大小関係、分数の大小関係の理解に課題が見られる。  
(小学4年生<sup>4</sup>(4)、小学5年生<sup>2</sup>(3))
- ◆ 2 小数の乗法や分数の除法の式の意味の理解に課題が見られる。  
(小学5年生<sup>2</sup>(5)、小学6年生<sup>3</sup>(2))
- ◆ 3 グラフや表から必要な情報を読み取り、示された事柄が正しくない理由を説明することに課題が見られる。  
(小学4年生<sup>11</sup>、小学5年生<sup>12</sup>、小学6年生<sup>14</sup>)

#### 指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆ 1 整数や小数の大小関係や分数の大小関係を理解することができるようにするためには、小数や分数の大きさや意味について考える場面を設定して指導することが大切です。
  - 整数や小数、分数を図や数直線などに表し、それぞれのおよその大きさを捉え、それを基に大小関係を判断するような活動を授業に位置付けていますか。
  - 表された小数や分数について、何が何個あるという見方（例えば、10.2は、10が1個と0.1が2個ある）や、何のいくつ分であるという見方（例えば、10.2は、0.1の102個分である）など、複数の見方を通して、児童がその大きさを理解できるように指導していますか。
- ◆ 2 乗法と除法の式の意味を理解することができるようにするためには、式の意味や求められた数値の意味を考える場面を設定することが大切です。
  - 児童に立式させるだけでなく、「なぜ、そのように立式できるのか」ということを、具体的な問題場面と関連付けながら図や式、言葉などを用いて児童が説明する活動を授業に位置付けていますか。
  - 立式に使った数値の意味や立式して求められた数値の意味について、児童が説明する活動を授業に位置付けていますか。
- ◆ 3 グラフや表から必要な情報を読み取り、示された事柄の正誤の理由を説明することができるようにするためには、問題の意味や他者の考えを解釈したり、誤った考えを正しい考えに修正したりする場面を設定することが大切です。
  - 問題解決に必要な情報だけを児童に提示するのではなく、児童が問題場面を解釈し、問題の解決に必要な情報を考えて選ぶような活動を授業に位置付けていますか。
  - 教師が示した考えや友達が発表した考えの意味を解釈し、図や式、言葉などを用いて説明する活動を授業に位置付けていますか。
  - 正しい考えだけでなく、誤った考えも意図的に示すなどして、児童に話し合う必然性をもたせ、示された考えの誤っている部分を見つけて誤っている理由を考えたり、誤った考えを正しい考えに修正したりするような活動を授業に位置付けていますか。

 他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。

## 中学校数学（中学1年生、中学2年生）

### 成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 正の数と負の数の計算、同類項をまとめる計算、連立二元一次方程式を解く技能が身に付いている。  
(中学1年生<sup>1</sup>(1)(2)、中学2年生<sup>1</sup>(1)(3)(3))
- ◇ 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができている。  
(中学1年生<sup>6</sup>(1)、中学2年生<sup>4</sup>(1)(5)(1))
- ◆1 比例や反比例の関係を式に表したり、一次関数の表から  $x$  と  $y$  の関係を式に表したりすることに課題が見られる。  
(中学1年生<sup>9</sup>(2)(10)(2)、中学2年生<sup>9</sup>(3))
- ◆2 資料から範囲を求めたり、度数分布表から相対度数や最頻値を求めたりすることに課題が見られる。  
(中学2年生<sup>11</sup>(12)(1)(2))
- ◆3 文字を用いた不等式から数量の大小関係を読み取って説明すること、事柄が成り立つ理由を構想を立てて説明することに課題が見られる。  
(中学1年生<sup>8</sup>、中学2年生<sup>5</sup>(2))

### 指導改善のポイント（次の視点から授業を振り返り、チェック☑してみましょう。）

- ◆1 比例や反比例の関係を式に表したり、一次関数の表から  $x$  と  $y$  の関係を式に表したりすることができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。
  - ☐ 比例、反比例、一次関数の式が、それぞれ  $y=ax$ 、 $y=a/x$ 、 $y=ax+b$  で表されることを、生徒が確実に理解できるようにしていますか。
  - ☐ 比例や反比例、一次関数の特徴を、式だけでなく、表やグラフでも捉えることができるようにし、生徒が、表、式、グラフを相互に関連付けて考えるような活動を通して、理解を図るようにしていますか。
- ◆2 資料から範囲を求めることや度数分布表から相対度数や最頻値を求めることができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。
  - ☐ 資料の活用における「範囲」の意味や表し方が、日常生活で用いる「範囲」という言葉の意味や表し方とは異なるということを、生徒が理解できるようにしていますか。
  - ☐ 総度数が異なる資料を比較する際に、階級の度数をそのまま比較することが適切ではないことを生徒が実感できるような場面を設定し、「相対度数」の意味や「相対度数」で表すことの必要性を、生徒が理解できるようにしていますか。
  - ☐ 度数分布表から最頻値を求める際に、「度数の最も多い階級の階級値を最頻値として用いる」ということを、生徒が理解できるようにしていますか。
  - ☐ 度数分布表から資料の傾向を捉える際に、相対度数を求めたり、ヒストグラムから資料の傾向を捉える際に、範囲を確認させ、代表値として平均値、中央値、最頻値を求めたりするような活動を授業に位置付けていますか。
- ◆3 文字を用いた不等式から数量の大小関係を読み取って説明したり、事柄が成り立つ理由を構想を立てて説明したりすることができるようにするためには、次のような指導を行うことが大切です。
  - ☐ 生徒が、式から読み取ったことや事柄が成り立つ理由などを記述したり、他者に説明したりする活動を設定し、適切な指導を行っていますか。
  - ☐ 生徒が記述したり説明したりした内容が適切であるかどうかを生徒同士が互いに吟味し合っ、て、よりよい表現にしていくような活動を授業に位置付けていますか。
  - ☐ 生徒が、事柄が成り立つ理由を説明する際に、根拠を明確にすることや、結論までを確実に表現することを指導していますか。



他にも、ヒントがいっぱい。ぜひ、こちらもご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターの「プロジェクト研究」では、新学習指導要領で示された三つの資質・能力を育成するために、日々の授業をどのように改善すればよいかを提案しています。質的改善のための具体的な手立て(方法)とその手立てに基づいた質的改善の営みを紹介していますので、ぜひ、ご活用ください。

(3) 各学年の設問ごとの正答率

[表1] 小学校4年生 算数 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

県	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,412	61.9	1.8	81.4	61.4	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	数と計算	10	63.0	1.5	81.5	61.5	
	量と測定	7	67.0	1.5	80.0	60.0	
	図形	4	59.8	1.9	85.0	65.0	▼
	数量関係	5	47.0	3.2	78.0	58.0	▼
評価の観点	①考え方	5	38.7	4.3	73.0	53.0	▼
	②技能	8	78.6	0.8	83.8	63.8	
	③知識・理解	12	60.5	1.5	83.3	63.3	▼
問題形式	選択式	6	61.3	0.6	84.2	64.2	▼
	短答式	17	66.7	1.8	82.1	62.1	
	記述式	2	22.9	5.6	67.5	47.5	▼
活用	「活用」に関する問題	3	29.1	5.1	70.0	50.0	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式	活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	①考え方	②技能	③知識・理解					十分達成	おおむね達成	
1	(1)	2位数×2位数の乗法の計算をすることができる	○					○		86.7	0.3	85	65	◎	
1	(2)	除数が2位数で、被除数が3位数である除法の計算をすることができる	○					○		78.8	2.1	85	65		
1	(3)	1/10の位までの小数の加法の計算をすることができる	○					○		86.4	0.4	85	65	◎	
1	(4)	( )を用いた式の計算をすることができる			○			○		93.8	0.5	85	65	◎	
2	(1)	□を用いて数量の関係を表すことができる			○			○		48.2	0.4	80	60	▼	
2	(2)	正しい式にするために( )を用いた正しい式を考えることができる			○			○		34.4	4.8	80	60	▼	
2	(3)	分配法則について理解している			○			○		38.5	2.2	80	60	▼	
3	(1)	分度器を用いて180°より小さい角の大きさを求めることができる	○					○		86.6	0.3	85	65	◎	
3	(2)	180°より大きい角の大きさを求めることができる	○					○		83.9	0.8	85	65		
4	(1)	千億までの位の数を、数直線から読み取ることができる	○					○		64.5	1.3	80	60		
4	(2)	示された位までの概数にする際、1つ下の位の数を四捨五入して処理する方法について理解している	○					○		80.8	0.8	80	60	◎	
4	(3)	以上、未満の意味について理解している	○					○		59.2	3.4	85	65	▼	
4	(4)	整数や小数の大小を理解している	○					○		62.5	0.5	85	65	▼	
5		除数が1位数で被除数が3位数の場合の、除法の筆算の仕方を理解している	○					○		25.9	1.5	80	60	▼	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	① 考え方	② 技能	③ 知識・理解	選択式	短答式	記述式				十分達成	おおむね達成	
6	(1)	kmとm, mとcmの関係を理解している						○		○			82.0	0.6	85	65	
6	(2)	重さの感覚を身に付けている						○		○			77.5	0.5	85	65	
7	(1)	円の直径について理解している						○		○			54.1	4.5	85	65	▼
7	(2)	正方形の辺と辺の平行の関係を理解している						○		○			87.3	1.5	85	65	◎
7	(3) 台形	台形について理解している						○		○			25.8	0.8	85	65	▼
7	(3) 平行四辺形	平行四辺形について理解している						○		○			72.0	0.8	85	65	
7	(4)	長方形を組み合わせた図形の面積の求め方を考えることができる						○		○			72.0	1.4	75	55	
8		示された情報を基に必要な量と残りの量の大小を判断し、その理由を説明することができる。				○	○				○	○	25.6	3.1	70	50	▼
9		除数と被除数を同じ数で割っても商は変わらないことを理解している				○				○			60.1	1.2	80	60	
10		360°をつくるための、三角定規の必要な枚数の求め方を考えることができる					○			○	○		41.5	4.1	75	55	▼
11		示された説明が正しくない理由を、棒グラフから必要な情報を読み取って説明することができる						○			○	○	20.2	8.0	65	45	▼

[表2] 小学校5年生 算数 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,274	70.6	1.5	80.6	60.6	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	数と計算	8	72.6	0.6	83.8	63.8	
	量と測定	9	70.3	2.8	76.7	56.7	
	図形	5	61.9	0.7	83.0	63.0	▼
	数量関係	5	66.9	4.0	77.0	57.0	
評価の観点	①考え方	6	62.6	4.3	72.5	52.5	
	②技能	9	81.7	0.5	83.9	63.9	
	③知識・理解	11	65.9	0.8	82.3	62.3	
問題形式	選択式	10	65.0	0.6	81.0	61.0	
	短答式	14	78.2	1.0	82.1	62.1	
	記述式	2	45.0	9.5	67.5	47.5	▼
活用	「活用」に関する問題	4	54.2	6.2	70.0	50.0	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式	活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	①考え方	②技能	③知識・理解					十分達成	おおむね達成	
1	(1) 被乗数、乗数が共に小数の乗法の計算をすることができる	○					○		○	86.0	0.0	85	65	◎	
1	(2) 被除数、除数が共に小数の除法の計算をすることができる	○					○		○	86.6	0.3	85	65	◎	
1	(3) 被除数が整数、除数が小数の除法の計算をすることができる	○					○		○	77.5	0.4	85	65		
1	(4) 加法と乗法が混合した計算をすることができる			○			○		○	70.7	0.2	85	65		
2	(1) 数直線から1/100の位までの小数を読み取ることができる	○					○		○	78.8	0.4	85	65		
2	(2) 公約数、最大公約数の意味と用語を理解している	○					○		○	73.1	1.2	85	65		
2	(3) 分数の大小関係を理解している	○					○		○	58.1	1.8	80	60	▼	
2	(4) 小数の相対的な大きさを理解している	○					○		○	66.5	0.3	85	65		
2	(5) 乗数が小数、被乗数が整数の乗法の式の意味について理解している	○					○		○	54.3	0.2	80	60	▼	
2	(6) 二つの数量の関係を□、△を用いて表すことができる			○			○		○	86.4	0.3	80	60	◎	
3	(1) 単位量当たりの大きさを調べる場面と図とを関連付けて、二つの数量の関係を理解している	○					○		○	89.9	0.3	80	60	◎	
3	(2) 単位量当たりの大きさの求め方を理解している	○					○		○	73.2	1.3	80	60		
4	示された情報を基に、条件に合った時間を考えることができる	○					○		○	67.0	1.7	75	55		
5	(1) 直方体の展開図に必要な面を理解している			○			○		○	79.1	0.3	85	65		



設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	①考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				記述式	十分達成	
5	(2)	三角定規を組み合わせてできる角の大きさを考えることができる	○						○			80.7	0.7	80	60	◎
5	(3)	立方体の体積を求めることができる	○						○			73.7	0.5	85	65	
6		立体の体積を求める式と図とを関連付けて考えることができる	○						○			77.9	0.4	75	55	◎
7	(1)	合同な図形について理解している		○				○	○			58.3	0.5	80	60	▼
7	(2)	立方体の面と面の平行の関係を理解している		○				○	○			92.3	0.7	85	65	◎
7	(3)	見取り図から読み取った面の形や辺の大きさについて理解している		○				○	○			61.5	0.6	85	65	▼
8		ペットボトルのキャップをクラス全体で何個集めたかを求める式を解釈し、その意味を説明することができる	○					○		○		68.1	4.7	70	50	
9		合同な三角形をかくために必要な条件を理解している		○				○	○			18.5	1.3	80	60	▼
10	(1)	二つの観点から整理して、表を用いて表すことができる			○			○	○			95.6	1.1	85	65	◎
10	(2)	測定値に0を含む場合において、測定値の平均を求めることができる	○					○	○			80.0	1.4	80	60	◎
11		示された情報を基に、勝ち、あいこ、負けの回数を考え、示された公式に数値を当てはめて勝ち点を求めることができる			○			○		○		59.9	4.0	70	50	
12		グラフから必要な情報を読み取り、一人当たりのごみの量を求め、それを根拠に、示された事柄が正しくない理由を説明することができる	○	○				○		○		21.9	14.3	65	45	▼

[表3] 小学校6年生 算数 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,094	68.7	1.2	80.6	60.6	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	数と計算	8	73.5	0.9	80.6	60.6	
	量と測定	6	64.1	1.9	79.2	59.2	
	図形	6	69.9	0.3	80.8	60.8	
	数量関係	8	63.9	2.6	80.0	60.0	
評価の観点	①考え方	6	63.4	3.0	73.3	53.3	
	②技能	8	72.1	0.7	83.8	63.8	
	③知識・理解	13	69.0	0.7	81.9	61.9	
問題形式	選択式	12	68.6	0.4	80.4	60.4	
	短答式	13	73.9	0.8	82.7	62.7	
	記述式	2	35.4	8.3	67.5	47.5	▼
活用	「活用」に関する問題	4	55.9	4.4	70.0	50.0	

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合は、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	①考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				十分達成	おおむね達成	
1	(1) 異分母分数の加法の計算をすることができる	○				○			○			78.1	0.3	85	65	
1	(2) 被乗数、乗数が共に真分数の乗法の計算をすることができる	○				○			○			89.7	0.3	85	65	◎
1	(3) 小数及び分数を含んだ乗法の計算をすることができる	○				○			○			81.3	0.9	85	65	
1	(4) 加法と乗法が混合した分数の計算をすることができる			○		○			○			32.8	0.8	85	65	▼
2	分数の除法の計算の意味を理解している	○					○		○			67.7	3.3	80	60	
3	(1) 場面と数直線とを関連付けて、二つの数量の関係を理解している	○					○		○			81.4	0.1	80	60	◎
3	(2) 分数の除法の意味について理解している	○					○		○			59.0	0.3	80	60	▼
4	(1) 時速を基に、分速を求めることができる	○				○			○			67.1	1.0	85	65	
4	(2) 異種の二つの量の割合として捉えられる数量について、その比べ方を理解している	○					○		○			38.8	0.2	80	60	▼
4	(3) xやyを用いた式の意味について理解している			○			○		○			90.8	0.2	85	65	◎
4	(4) 乗数や除数が分数である計算において、乗数や除数と計算の答えの大きさとの関係について理解している	○					○		○			54.6	1.6	80	60	▼
5	身の回りにある形について、概形を捉え、およその面積を求める式を考えることができる	○				○			○			89.8	0.1	80	60	◎
6	(1) 円周の求め方を理解している			○			○		○			40.1	0.2	85	65	▼
6	(2) 三角柱の体積を求めることができる	○					○		○			71.1	0.6	80	60	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」 に関する問題	県 正答率	県 無解答率	期待 正答率		到達 状況
		数 と計 算	量 と測 定	図 形	数 量 関 係	① 考 え 方	② 技 能	③ 知 識 ・ 理 解	選 択 式	短 答 式	記 述 式				十 分 達 成	お お む ね 達 成	
7	模様が描かれた立方体の見取図を基に、展開図を考えることができる			○		○			○		○	77.0	0.1	75	55	◎	
8	(1) 点対称な図形における対応する点の位置関係を理解している			○			○		○			76.1	0.4	85	65		
8	(2) 線対称な図形における対称の軸について理解している			○			○		○			82.4	0.2	80	60	◎	
8	(3) 五角柱の特徴を理解している			○			○		○			76.8	0.3	80	60		
9	(1) 等しい比について理解している			○			○		○			87.8	0.4	85	65	◎	
9	(2) 基準となる大きさを1として、それに対する割合を小数で表し、基準量と比較量の関係を理解している			○			○		○			51.4	1.0	80	60	▼	
10	(1) 元の図形と拡大図の関係を基に、拡大図の面積を考えることができる			○			○		○			66.9	0.5	80	60		
10	(2) 平行四辺形の面積を求めることができる		○				○		○			69.1	1.0	80	60		
11	示された情報を基に、出発から到着までにかかる時間と飛ぶ道のりの関係を表す直線がグラフに入りきらない理由を説明することができる		○	○		○			○	○		48.9	8.4	70	50	▼	
12	乗法や除法の意味を解釈することができる	○				○			○	○		76.1	0.8	70	50	◎	
13	(1) 比例のグラフから、釘の本数を読み取ることができる			○		○			○			87.6	1.0	85	65	◎	
13	(2) 反比例の意味を理解している			○		○			○			90.1	0.9	85	65	◎	
14	図と表に示された情報から、それぞれの年の農業で働く人数を求め、それを根拠に示された事柄が正しくない理由を説明することができる			○		○			○	○		21.8	8.2	65	45	▼	

[表4] 中学校1年生 数学 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

県	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,016	55.1	6.7	71.1	51.1	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	数と式	20	53.5	6.6	71.5	51.5	
	関数	11	58.0	6.7	70.5	50.5	
評価の観点	①見方や考え方	5	33.3	17.6	60.0	40.0	▼
	②技能	16	57.1	6.4	72.8	52.8	
	③知識・理解	10	62.9	1.7	74.0	54.0	
問題形式	選択式	8	60.3	1.7	73.1	53.1	
	短答式	19	56.9	6.2	72.9	52.9	
	記述式	4	36.2	18.7	58.8	38.8	▼
活用	「活用」に関する問題	5	33.3	17.6	60.0	40.0	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等		評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		数と式	関数	①見方や考え方	②技能	③知識・理解	選択式	記述式				十分達成	おおむね達成	
1	(1)	正の数と負の数の加法の計算をすることができる	○			○		○		93.5	0.2	75	55	◎
1	(2)	四則を含む正の数と負の数の計算をすることができる	○			○		○		78.3	0.9	75	55	◎
1	(3)	指数を含む正の数と負の数の計算をすることができる	○			○		○		61.3	0.8	75	55	
2	(1)	一次式の加法と減法の計算をすることができる	○			○		○		63.6	3.6	75	55	
2	(2)	一次式を数でわる計算をすることができる	○			○		○		47.1	7.7	75	55	▼
2	(3)	分配法則を用いた文字式の計算をすることができる	○			○		○		56.6	5.5	70	50	
3	(1)	自然数の意味を理解している	○			○		○		53.6	0.5	75	55	▼
3	(2)	絶対値について理解している	○			○		○		37.0	0.8	75	55	▼
3	(3)	実生活の場面において、ある数量が正の数と負の数で表されていることを理解している	○			○		○		88.3	2.3	75	55	◎
3	(4)	数の集合と四則計算の可能性について理解している	○			○		○		75.8	1.0	70	50	◎
4	(1)	数量の関係を文字式に表すことができる	○			○		○		18.6	12.4	70	50	▼
4	(2)	指数を含む文字式に数を代入して式の値を求めることができる	○			○		○		35.3	11.0	75	55	▼
4	(3)	数量の大小関係を不等式に表すことができる	○			○		○		62.5	1.5	70	50	
5	(1)	一元一次方程式の解の意味を理解している	○			○		○		39.3	1.7	75	55	▼

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県 正 答 率	県 無 解 答 率	期待 正 答 率		到達 状 況
		数 と 式	関 数	① 見 方 や 考 え 方	② 技 能	③ 知 識 ・ 理 解	選 択 式	短 答 式	記 述 式	十 分 達 成				お お む ね 達 成		
5	(2)	分数を含む一元一次方程式を解くことができる	○				○			○		45.3	14.2	70	50	▼
5	(3)	簡単な比例式を解くことができる	○				○			○		51.1	12.4	75	55	▼
6	(1)	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	○				○			○		73.5	2.0	70	50	◎
6	(2)	事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明することができる	○				○			○	○	45.5	21.2	60	40	
7		与えられた情報を的確に読み取り、正しい方程式を考えることができる	○				○			○	○	21.6	13.1	65	45	▼
8		文字を用いた不等式から、数量の大小関係を読み取り、説明することができる	○				○			○	○	22.6	20.0	60	40	▼
9	(1)	変域の表し方を理解している	○				○			○		73.1	2.0	75	55	
9	(2)	比例の関係を式に表すことができる	○				○			○		42.4	7.3	75	55	▼
9	(3)	点の座標の表し方を理解している	○				○			○		83.7	1.6	75	55	◎
9	(4)	与えられた比例の式について、そのグラフ上の点のx座標を基に、y座標を求めることができる	○				○			○		50.9	9.5	75	55	▼
9	(5)	比例の式とグラフの関係について理解している	○				○			○		60.2	1.9	75	55	
10	(1)	具体的な事象における二つの数量の関係が、反比例の関係になることを理解している	○				○			○		45.4	2.6	70	50	▼
10	(2)	表から変数x、yの間の関係を見だし、反比例の関係を式に表すことができる	○				○			○		44.0	7.2	75	55	▼
10	(3)	反比例の式とグラフの関係について理解している	○				○			○		72.4	2.4	75	55	
11		前提となる条件が不足している場合に、加えるべき条件を判断し、それが適している理由を説明することができる	○				○			○	○	40.1	14.9	60	40	
12	(1)	与えられたグラフから必要な情報を読み取ることができる	○				○			○		89.2	5.8	65	45	◎
12	(2)	グラフや式などを基に、問題解決の方法を数学的に説明することができる	○				○			○	○	36.7	18.6	55	35	

[表5] 中学校2年生 数学 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,066	50.0	10.5	70.0	50.0	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	数と式	14	59.0	9.6	69.6	49.6	
	図形	8	51.1	7.1	71.3	51.3	▼
	関数	6	45.7	12.2	69.2	49.2	▼
	資料の活用	5	28.4	16.1	70.0	50.0	▼
評価の観点	①見方や考え方	7	44.6	21.4	60.0	40.0	
	②技能	16	55.1	9.2	72.5	52.5	
	③知識・理解	10	45.7	4.9	73.0	53.0	▼
問題形式	選択式	13	52.8	2.5	70.8	50.8	
	短答式	15	49.5	11.3	73.0	53.0	▼
	記述式	5	44.3	28.7	59.0	39.0	
活用	「活用」に関する問題	5	44.3	28.7	59.0	39.0	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		数と式	図形	関数	資料の活用	①見方や考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				十分達成	おおむね達成	
1	(1) 同類項をまとめることができる	○					○		○		88.1	1.6	75	55	◎	
1	(2) 分数を含む整式の加法と減法の計算をすることができる	○					○		○		40.1	7.6	70	50	▼	
1	(3) 指数を含む式の計算をすることができる	○					○		○		58.1	2.9	75	55		
1	(4) 分数を含む単項式の除法の計算をすることができる	○					○		○		35.3	6.9	70	50	▼	
2	(1) 文字式に数を代入して式の値を求めることができる	○					○		○		42.8	12.2	70	50	▼	
2	(2) 等式を目的に応じて変形することができる	○					○		○		60.1	10.5	75	55		
3	(1) 二元一次方程式とその解の意味を理解している	○					○		○		70.3	2.7	75	55		
3	(2) 具体的な事象の中の数量の関係を捉え、連立二元一次方程式をつくることができる	○					○		○		64.3	1.8	70	50		
3	(3) 簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	○					○		○		77.2	8.1	75	55	◎	
4	(1) 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	○					○		○		73.0	1.8	70	50	◎	
4	(2) 数量の関係や法則などを、文字式でどのように表すことができるのかを考えることができる	○					○		○		50.1	2.6	60	40		
5	(1) 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	○					○		○		74.9	12.3	70	50	◎	
5	(2) 事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明することができる	○					○		○	○	30.5	37.7	60	40	▼	
5	(3) 発展的に考え、予想した事柄を説明することができる	○					○		○	○	61.9	26.2	60	40	◎	

設問別集計結果

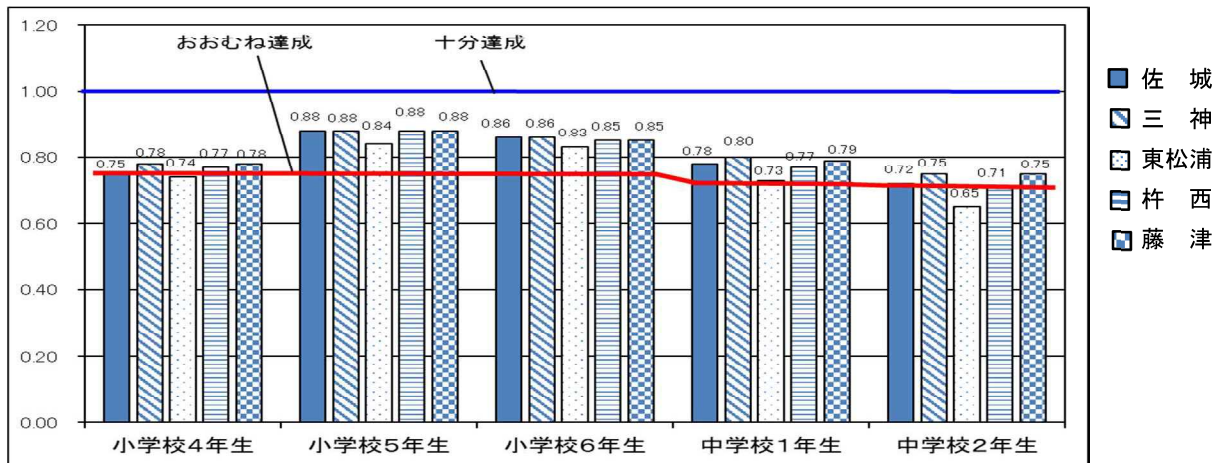
問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況
		数と式	図形	関数	資料の活用	①見方や考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				十分達成	おおむね達成	
6	(1)		○				○		○		85.3	1.0	75	55	◎	
6	(2)		○				○		○		29.5	1.4	75	55	▼	
6	(3)		○				○		○		24.5	25.7	70	50	▼	
6	(4)		○				○		○		59.5	2.2	75	55		
7	(1)		○				○		○		81.1	2.3	75	55	◎	
7	(2)		○				○		○		63.6	1.9	70	50		
7	(3)		○				○		○		32.5	2.9	70	50	▼	
8			○				○		○	○	31.8	20.2	60	40	▼	
9	(1)		○				○		○		40.5	3.1	70	50	▼	
9	(2)		○				○		○		62.2	15.4	75	55		
9	(3)		○				○		○		27.4	23.5	70	50	▼	
9	(4)		○				○		○		52.3	3.0	75	55	▼	
10	(1)		○				○		○		40.6	3.5	65	45	▼	
10	(2)		○				○		○	○	51.1	25.0	60	40		
11			○				○		○		20.9	11.8	75	55	▼	
12	(1)		○				○		○		38.1	15.2	75	55	▼	
12	(2)		○				○		○		12.2	13.9	75	55	▼	
13			○				○		○		25.1	5.0	70	50	▼	
14			○				○		○	○	45.9	34.4	55	35		

#### (4) 地域別の状況

- 県内5地域における学年別平均正答率の「十分達成」に対する状況は、小学校5年生と小学校6年生、中学校1年生で5地域とも「おおむね達成」の基準に達している。[グラフ11]
- 県内5地域における学年別平均正答率の対県比は[表6]のとおりで、中学校2年生で地域差が最も大きい。また、4月調査と比べて小学校5年生と小学校6年生、中学校2年生で地域差が縮小し、中学校1年生で地域差が拡大している。

[グラフ11] 県内5地域における学年別平均正答率の「十分達成」に対する状況

※ 各学年における「十分達成」の到達基準を1.00として算出



[表6] 県内5地域における学年別平均正答率の対県比

学年・教科	実施年度	対県比(地域平均正答率/県平均正答率)					地域差
		佐城	三神	東松浦	杵西	藤津	
小学校4年生	H29[12月]	0.99	1.02	0.97	1.01	1.03	0.06
	H29[4月]	-	-	-	-	-	-
小学校5年生	H29[12月]	1.01	1.01	0.96	1.01	1.00	縮 0.05
	H29[4月]	1.01	0.99	0.97	1.01	1.04	0.07
小学校6年生	H29[12月]	1.01	1.01	0.97	1.00	1.00	縮 0.04
	H29[4月]	1.02	1.02	0.97	0.98	0.99	0.05
中学校1年生	H29[12月]	1.01	1.03	0.95	0.99	1.03	拡 0.08
	H29[4月]	1.01	1.02	0.97	1.00	0.97	0.05
中学校2年生	H29[12月]	1.01	1.05	0.91	0.99	1.05	▲ 縮 0.14
	H29[4月]	1.06	1.00	0.89	0.98	1.03	▲ 0.17

※ 「対県比」は、県平均正答率を1.00として算出

※ 「地域差」は、対県比の最大値と最小値の差を表す

※ 「▲」は、地域差が0.10以上の教科を示す

※ 「縮」は、平成29年度[4月調査]より地域差が縮小した教科を、「拡」は拡大した教科を示す

※ 地域及び市町名

地域名	市町名
佐城	佐賀市、多久市、小城市
三神	鳥栖市、神埼市、吉野ヶ里町、基山町、みやき町、上峰町
東松浦	唐津市、玄海町
杵西	武雄市、伊万里市、白石町、大町町、江北町、有田町
藤津	鹿島市、嬉野市、太良町